

# 一般廃棄物処理基本計画の見直し

資料 2

# 一般廃棄物処理基本計画の見直しにおける目標数値の達成状況

## 基本目標の達成状況

### (1) 排出削減目標

**排出削減目標** **ごみ総排出量(g/人・日)を平成19年度実績値(881g)以下とする。**

$$1人1日当たりのごみ総排出量(g/人・日) = \frac{\text{年間ごみ総排出量(収集ごみ量+持込みごみ量+集団回収量(市等の助成金あり))}}{\text{人口} \times 365日}$$

※収集ごみ量は、センターが収集している可燃ごみ量・生ごみ量・不燃ごみ量・資源ごみ量・粗大ごみ量の合計  
持込みごみ量は、センターに持ち込まれる可燃ごみ量・不燃ごみ量・粗大ごみ量の合計

### ◎1人1日当たりのごみ総排出量の達成状況

年度	平成19年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
ごみ総排出量(g/人・日)	881	827	839	837	840

(2)リサイクルの目標

リサイクル目標      リサイクル率を現状22.2%に対し26.0%以上とする。

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{総資源化量}}{\text{ごみ総排出量}}$$

※リサイクル率の算出基礎

	総資源化量(分子)	ごみ総排出量(分母)
センター施設のごみ総排出量(収集ごみ量+持込ごみ量)		◎
内センター施設の資源ごみ量、生ごみ量	◎	
集団回収(市等の助成金あり)	◎	◎
破砕後の再資源化量(鉄+アルミ)	◎	
粗大ごみ収集の再資源化量(自転車)	◎	

  

◎達成状況	年度	平成19年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
リサイクル率		22.2	22.3	22.0	21.8	21.8

◎実質リサイクル率の算定

目的:センター管内におけるごみ実質総排出量・実質総資源化量を算出することにより、実態に即した減量化施策の推進が図れる。

※実質リサイクル率の算出に追加する項目

	総資源化量(分子)	ごみ総排出量(分母)
集団回収量(市等の助成金なし)	◎	◎
民間事業での資源回収量(店頭回収等)	◎	◎
事業所等の自家処理量	◎	◎
センター施設以外の再資源化処理量	◎	◎

年度	平成25年度
実質リサイクル率	37.4



# 長浜市・米原市のごみ(一般廃棄物)の実態イメージ

センター施設内で処理をしているごみ	センター施設外で処理されているごみ	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集ごみ (可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ等)</li> <li>・ 持込ごみ (可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団回収ごみ (市等の助成金あり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不法投棄ごみ</li> <li>・ 不適正排出ごみ</li> </ul>
<p>(リサイクル率の範囲)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団回収ごみ (市等の助成金なし)</li> <li>・ 民間事業での資源回収</li> <li>・ 事業所等の自社処理</li> <li>・ センター施設以外の再資源化</li> </ul>	
<p>(実質リサイクル率の範囲)</p>		

平成25年度一般廃棄物のごみ実質総排出量と実質総資源化量(実態数値)

※リサイクル率の算出項目

項 目	区 分	ごみ量(t)
センター施設のごみ総排出量(収集ごみ量+持込ごみ量)	可燃ごみ	34,237
	不燃ごみ	3,236
	粗大ごみ	2,201
センター施設の資源ごみ量、生ごみ量	資源ごみ	7,792
	生ごみ(米原市コンポスト)	188
	計	47,654
集団回収量(市等の助成金あり)(自治会、小中PTA)	資源ごみ(空き缶、古紙)	2,161
破碎後の再資源化量(鉄+アルミ)	資源ごみ(鉄、アルミ)	790
粗大ごみ収集の再資源化量(自転車)	資源ごみ(自転車)	68

※実質リサイクル率の算出に追加する項目

集団回収量(市等の助成金なし)(福祉作業所等)	資源ごみ(空き缶、古紙)	391
民間事業での資源回収量(店頭回収等)(2市内スーパー7店舗)	資源ごみ(空き缶、古紙、ペットボトル、古布)	354
事業所等の自家処理量(2市内スーパー等14店舗、給食センター、市役所)	資源ごみ(食品残渣、古紙)	393
センター施設以外の再生資源化処理量(2市内5施設)	資源ごみ(木、草)	12,819



## ごみ減量等施策の現状と課題

		課 題	現 状	必要となる施策や対策
排出関係	家庭系ごみ	資源ごみ収集量の微減傾向が続いている。	スーパー等で資源の拠点回収が行われている。	
		資源化できるものが可燃・不燃ごみとして排出されている。	「こぼくるーる」や広報等で分別の周知を図っている。	分別ルール周知・啓発
	事業系ごみ	外国人等に分別が徹底できない。	2市で「こぼくるーる」早見表等の多言語対応版を作成。センター・ホームページから、市ホームページの外国語版へリンクが可能。	
		可燃ごみが増加傾向にある。	事業所用「こぼくるーる」が更新されていない。	事業所用「こぼくるーる」の作成 実態調査の実施 大量排出事業所への指導
収集関係	資源ごみ等	紙ごみが可燃ごみとして排出されている。	個人情報が含まれる書類についてはリサイクルができない。	
	小型家電等	資源ごみや粗大ごみから有価物が抜き取られる事例が発生している。	センター占有物としての立証が困難で、現行犯以外では対応が困難となっている。	抜き取り防止のための条例等の整備 所轄警察との連携
搬入ごみ		レアメタルを多く含む含む小型家電回収が実施できていない。 県内市と料金が異なる。 平成15年7月から改訂されていない。	実証調査を実施している。  家庭系 可燃ごみ 40円/10kg 不燃ごみ 40円/10kg 事業系 可燃ごみ 130円/10kg	小型家電回収事業の実施





(2) 従業員数（非正規従業員も含みます）

1. 1～9人	2. 10～29人	3. 30～49人
4. 50～99人	5. 100～199人	6. 200～299人
7. 300～399人	8. 400～499人	9. 500人以上

問い2. 貴事業所で発生する廃棄物の量とその内訳をお聞かせください。

（産業廃棄物とは、廃棄物処理法第2条第4項に定められた、事業活動に伴って生じる廃棄物の内、燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類などのことをいいます。）  
（単位：Kg）

	一般廃棄物			産業廃棄物
	可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ	
年間発生量				

問い3. 問い2の一般廃棄物の処理方法についてお聞かせください。

種類毎に、主な処理方法の該当する箇所に○を付けてください。

		排出物がない	自社で行政の処理施設に搬入	自社で資源回収業者に搬入	自社で自己処理（焼却・堆肥化）	廃棄物処理業者に委託	その他
可燃ごみ	紙ごみ						
	生ごみ						
	機密文書						
不燃ごみ							
資源ごみ	空き缶						
	古紙類						
	びん類						
	その他						



問い4. 貴事業所における、ごみの減量化やリサイクルの取組についてお聞かせください。  
該当するものに○を付けてください。

	現在取組 んでいる	今後取組 みたい
廃棄物の減量化に関する計画を作成し、減量化を進めている。		
古紙・びん・空き缶などの資源物の分別を徹底している。		
使えるものは修理して長持ちさせる。		
詰め替え可能な製品を購入する。		
製造・販売した製品の回収に協力している。		
原材料や物品の調達では、より環境負荷の少ないものを購入している。		
落ち葉、剪定枝等を資源化している。		
生ごみや調理くずを資源化している。		
廃食油を資源化している。		
包装を簡易にしている。		
製品容器等のリサイクルをしている。		
機密書類のリサイクルをしている。		
不良品の分別・売却をしている。		

具体的な減量化やリサイクルの例があれば記入ください。

例) 生ごみを自社の処理施設で堆肥化している等。

問い5. 貴事業所でごみの減量化やリサイクルを行ううえでの問題点をお聞かせください。  
該当するものに、2つまで○をつけてください。

コストがかかりすぎる。	
適当な資源回収業者が見当たらない。	
保管等のスペースがない。	
分別等の手間がかかりすぎる。	
衛生上の問題がある。	
経済的なメリットがない。	
機密上の課題がある。	
その他 ( )	

問い6. 貴事業所での減量化やリサイクルの情報の入手方法をお聞かせください。  
該当するものすべてに○を付けてください。

市の広報やホームページ	
湖北広域行政事務センターの広報やホームページ	
廃棄物処理業者	
商工会や業界団体	
新聞・テレビ・雑誌	
インターネット	
講演会・イベント・説明会	
その他 ( )	

問い7. 事業所でのごみの分別、減量、リサイクルの推進を記載したセンターが発行している「事業所用のこほくる〜」を知っていますか。  
該当するものに○を付けてください。

知っている。	
知らない。	

ご協力ありがとうございました。